

第6回 緊急対処事態対処 その1



第6回講座 緊急対処事態対処

- 1 「緊急対処事態」設定の背景や定義
- 2 緊急対処事態の4類型
- 3 事例紹介
(その2)
- 4 緊急対処事態の特性等
- 5 緊急対処事態対処行動
- 6 現地(連絡)調整所の設置・運営等



山下塾第6回講座のテーマは、「緊急対処事態対処」です。

2回に分けて説明します。説明項目はスライドにお示ししている通りです。

1(1) 「緊急対処事態」を設定した背景



(地下鉄サリン事件、9・11米国同時多発テロ等の惹起等)

- ① 「武力攻撃事態」であるとの認定は、特に当初の間は困難である。
- ② 武力攻撃の手段に準ずる手段による攻撃により甚大な災害が発生する可能性がある。

これらの事態に対処する為には
「緊急対処事態」を規定する必要性大

緊急対処事態を設けた理由はスライドの通りです。事件なのか事故なのか或いは武力攻撃事態なのかの事態認定は、迅速になされるべきですが、現実はなかなか困難です。地下鉄サリン事件は明確なテロ事態ですが、サリンと判断されるまでに結構時間を要しました。

1(2) 緊急処理事態の定義

- ①武力攻撃の手段に準ずる手段を用いて
- ②多数の人を殺傷する行為が発生した事態
- ③または当該行為が発生する明白な危険が切迫していると認められるに至った事態で、
- ④国家として緊急に対処することが必要な事態
- ⑤緊急処理事態は、後日、武力攻撃事態であると認定される事態を含む

緊急処理事態の定義はスライドの通りです。

参考資料

緊急処理事態と類似の法定用語

- ① 緊急事態(警察法71条)
大規模な騒乱その他の緊急事態
治安の維持のため
- ② 災害緊急事態(災対法105条)
非常災害が発生、経済・公共の福祉に影響及ぼす異常且つ激甚な災害事態
- ③ 原子力緊急事態(原災法15条)
臨界事故等原子力緊急事態判断基準に至った原子力緊急事態

緊急処理事態対処のイメージ



9.11同時多発テロ



地下鉄サリン事件



スペイン列車爆発事件



石油タンク爆発

参考までに、緊急事態という文言を用いている事態をスライドに示しました。

あの阪神淡路大震災ですら災害緊急事態との認定はなされませんでした。

原子力緊急事態はJCOの事故を契機に設けられ、治安上の緊急事態も発動されたことはありません。

個々の緊急事態に関する規定はあってもトータルとしての緊急事態を律する法律がない

の寂しいですね。

2 緊急処理事態の4類型

緊急処理事態は、

- ① 攻撃対象施設により2分類
 - 危険性内在施設等への攻撃
 - 多数集合施設や大量輸送機関への攻撃 (次VG)
- ② 攻撃手段により 2分類
 - 多数の人を殺傷する物質等による場合
 - 交通機関を破壊手段として用いる場合 (次々VG)

～攻撃対象施設等による分類～

危険性を内在する物質を有する施設等に対する攻撃が行われる事象

＜事例＞
原子力事業所などの破壊
大量の放射性物質などが放出され、周辺住民が被ばくするとともに、汚染された飲食物を摂取した住民が被ばくします。

石油コンビナート、可燃性ガス貯蔵施設などの爆破
爆発・火災の発生により住民に被害が発生するとともに、建物やライフラインなどの被災により、社会経済活動に支障が生じます。

危険物積載船などへの攻撃
危険物の拡散により沿岸住民への被害が発生するとともに、港湾や航路の閉塞、海洋資源の汚染など、社会経済活動に支障が生じます。

多数の人が集合する施設及び大量輸送機関等に対する攻撃が行われる事象

＜事例＞
大規模乗客施設、ターミナル駅などの爆破
爆破による人的被害が発生し、施設が崩壊した場合は被害が多岐なものとなります。



～攻撃手段による分類～

多数の人を殺傷する特性を有する物質等による攻撃が行われる事象

＜事例＞
ターミネーターなどの爆発
爆発の破片や飛び散った物体による被害、熱や炎による被害などが発生し、放射線によって異常な増殖能力が認められると、後年、がんを発生させることもあります。

生物剤の大量散布
人に知られることなく散布することが可能である。また、感染するまでの潜伏期間に、感染した人々が移動し、後に生物剤が散布されたと判明した場合には、既に広域的に被害が発生している可能性があります。ヒトを媒体とする生物剤による攻撃が行われた場合には、二次感染により被害が拡大することが考えられます。

化学剤の大量散布
地形・気象などの影響を受けて、風下方向に拡散し、空気より重いサリンなどの神経剤は下層はうように広がります。

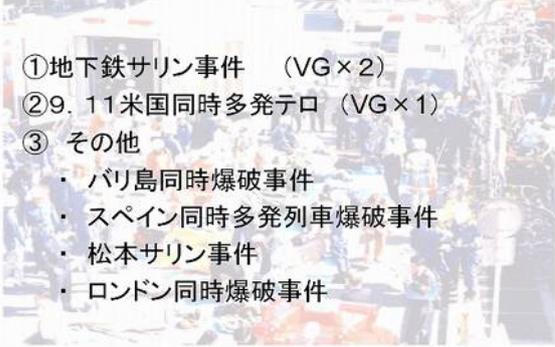
破壊の手段として交通機関を用いた攻撃等が行われる事象

＜事例＞
航空機などによる自爆テロ
爆発・火災などの発生により住民に被害が発生するとともに、建物やライフラインなどが被災し、社会経済活動に支障が生じます。



緊急処理事態は攻撃隊小説及び攻撃手段によりスライドに示す4つの類型に分けられています。夫々の具体的なケースは次及び次々のスライドの通りです。

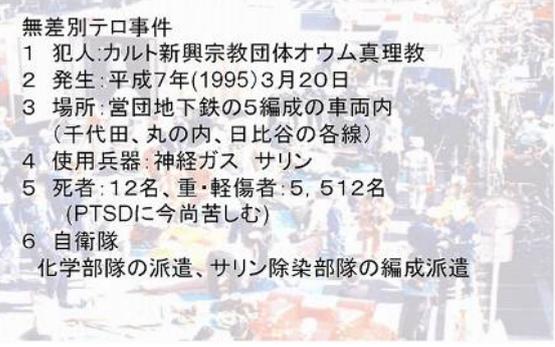
3 事例紹介(再掲)

- 
- ①地下鉄サリン事件 (VG×2)
 - ②9.11米国同時多発テロ (VG×1)
 - ③ その他
 - ・ バリ島同時爆破事件
 - ・ スペイン同時多発列車爆破事件
 - ・ 松本サリン事件
 - ・ ロンドン同時爆破事件

事例1

地下鉄サリン事件の概要

無差別テロ事件

- 
- 1 犯人:カルト新興宗教団体オウム真理教
 - 2 発生:平成7年(1995)3月20日
 - 3 場所:営団地下鉄の5編成の車両内
(千代田、丸の内、日比谷の各線)
 - 4 使用兵器:神経ガス サリン
 - 5 死者:12名、重・軽傷者:5,512名
(PTSDに今尚苦しむ)
 - 6 自衛隊
化学部隊の派遣、サリン除染部隊の編成派遣

地下鉄サリン事件(平成7年3月20日朝)

現場の救護活動



事例 2

9. 11米国同時多発テロ



- 1 発生: 2001年9月11日
- 2 ハイジャックした4機の航空機のうち
2機: WTCへの突入
1機: 国防総省に突入
1機: ワシントン郊外に墜落
- 3 死者: テロリスト19名を含み2, 993名
負傷者: 6, 291名以上、行方不明24名
- 4 容疑者: アルカーイダ

緊急対応事態を具体的にイメージしていただくためには、地下鉄サリン事件や9. 11米国同時多発テロを想起していただければと思います。